

生徒指導に関する印象の把握

—教育相談との比較と因子構造の検討—

○西嶋雅樹（島根大学教育学部附属教師教育研究センター）

キーワード：生徒指導・SD法・コンサルテーション・教職課程・教育相談

目 的

生徒指導は、学校において教員が児童・生徒の個性化・社会化の両面の伸長に関わる取り組みの全般を指す、重要な実践である。教職課程を履修する学生を対象として生徒指導に関する授業を有効に展開する上で、学生が生徒指導に抱く印象の現状を知ることが必要である。岩井（1991）や藤田・清水・伊谷（1999）などの先行研究から20年ほどが経っているため、本研究では改めて今日的な実態把握を試みた。

生徒指導に関する印象を明らかにすることは、『生徒指導提要』が求める今日的な生徒指導の在り方と現状の異同を捉えることにつながる。また、スクールカウンセラーによるコンサルテーション等の場面でも、教員の実践をよりよく理解するために有効であると考えられる。

そこで本研究では、生徒指導に関する印象について、①教育相談との比較、②生徒指導の因子構造の検討の2つの観点から検討した。

方 法

時期 2017年9月と2018年2月に実施した。

対象 教職課程を履修する大学生92名を対象とした。

用いた方法ならびに項目の選定 回答者ごとに生徒指導と教育相談のそれぞれに関する印象を、調査用紙によって求めた。評定に用いたのは、図1に示した30対の形容詞・形容動詞による対尺度と7件法の評定項目であった。

倫理的配慮 フェイスシートに次の2点を明記し、口頭で読み上げた上で、無記名での回答を求めた。①回答は任意であり回答しなくても不利益を被ることはないこと。②統計的な処理を行うので個人が特定されることはないこと。

結 果

まず、生徒指導と教育相談の印象の評定値を対応のあるt検定によって対尺度ごとに比較した。その結果をプロフィール化したものが、図1である（統計量については当日の発表にて呈示する）。

続いて、生徒指導の印象の評定値について、以下の手順で因子構造を検討した。①因子の抽出法は主因子法、回転はプロマックス回転を用い、スクリープロット等から3因子を想定した。②得られたパターン行列から、主たる因子に対する負荷量が0.4以上で、他の因子に対する負荷量が0.4未満の項目（計24項目）のみを残して再度①と同様の条件で因子分析を実施した。③最終的に、接しやすさ因子（あたたかい、心のひろい、など）、役割遂行因子（誠実な、たくましい、など）、活動性因子（にぎやかな、情熱的な）の3因子による構造を採用した（パターン行列等は当日の発表にて呈示する）。

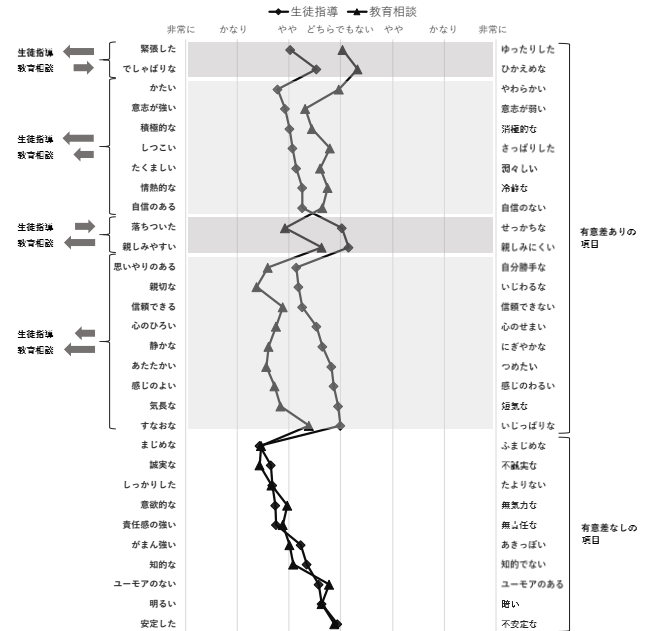


図1 生徒指導と教育相談のプロフィール

考 察

生徒指導と教育相談の印象の比較からは、押しつけがましき緊張感のある生徒指導と、落ち着いて親しみやすい教育相談という対比が見られた。これらの差を認識すると共に、両者に共通する印象も多く見られたという結果に着目することも重要であろう。また、得られた印象は「実践や役割」についての印象であり、個人についての印象ではない。同じ人でも立場によって発揮する機能が異なり、結果として強調点の差異が生まれうると理解するのが妥当であろう。また、積極的な生徒指導という在り方を考えた際には、教育相談に優位に示された印象が生徒指導においても意識化されていくように教職課程の授業を工夫することが求められる。

因子分析からは、生徒指導を理解する上で接しやすさ因子と役割遂行因子の両面を意識することの重要性が示唆された。生徒指導の目標である個性化には接しやすさ因子が、社会化には役割遂行因子が深く関わるものとして理解されよう。

文 献

- 藤田正・清水益治・伊谷實（1999）. 教育大学生における生徒指導と教育相談のイメージ. 教育実践研究指導センター研究紀要, 8, 101-108.
- 岩井勇児（1991）. 生徒指導・教育相談・進路指導のイメージ. 愛知教育大学研究報告 教育科学, 40, 79-92.

利益相反開示：発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません
(NISHIJIMA Masaki)